

273

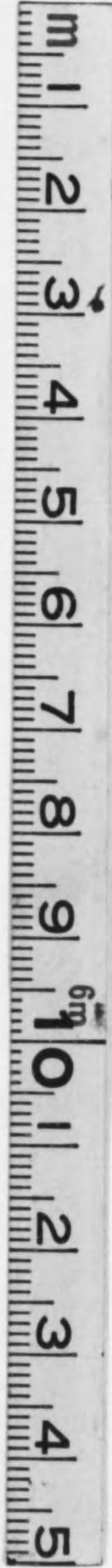
特 251

281

昭和邪教の全貌

人の道は
たぶらかれる!!

金十銭



始





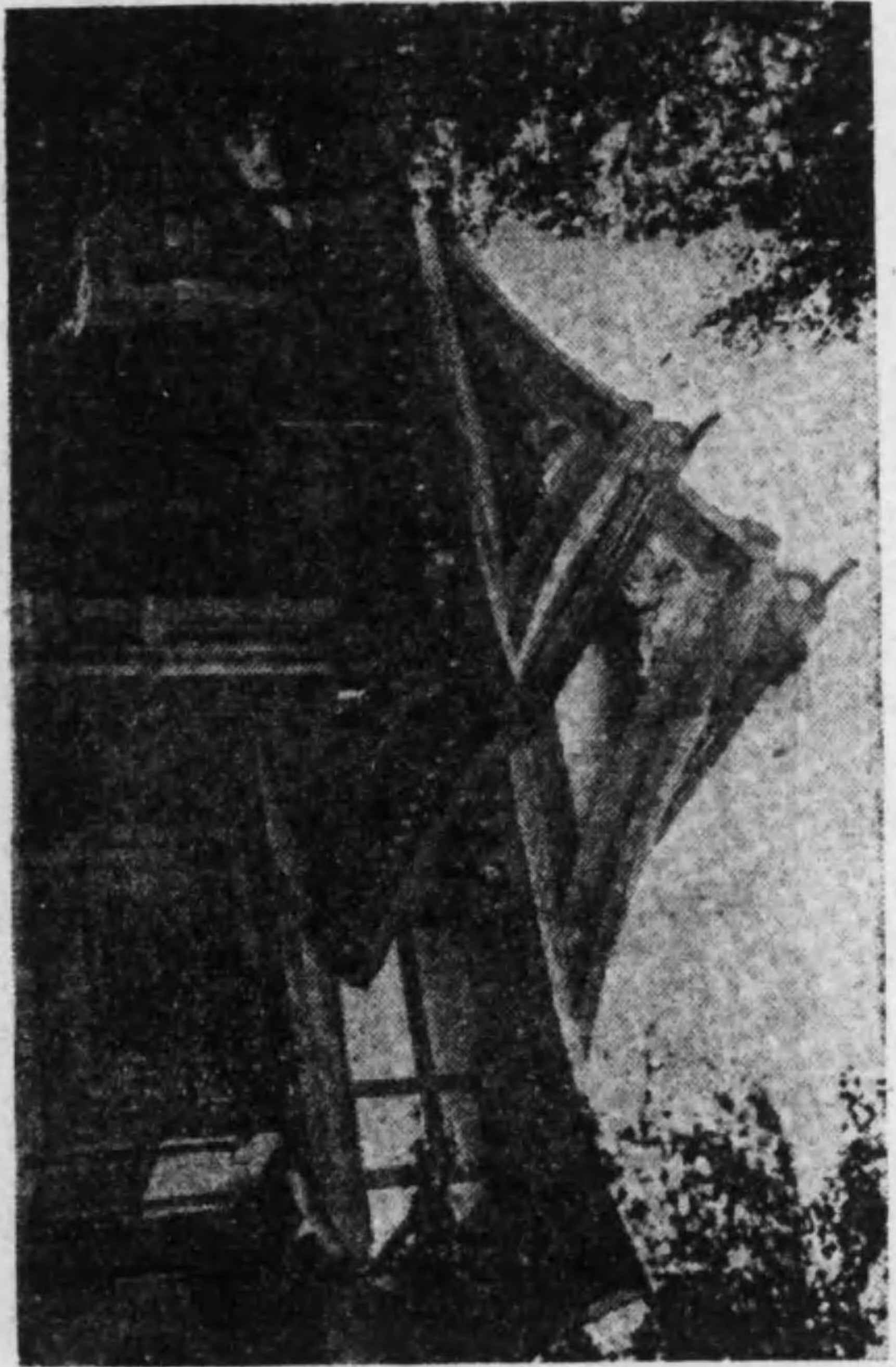
氏一徳木御られさ容收

景全の部本ちみのとひ



(上)師光徳田金と妻夫木御の前教立

特251
281

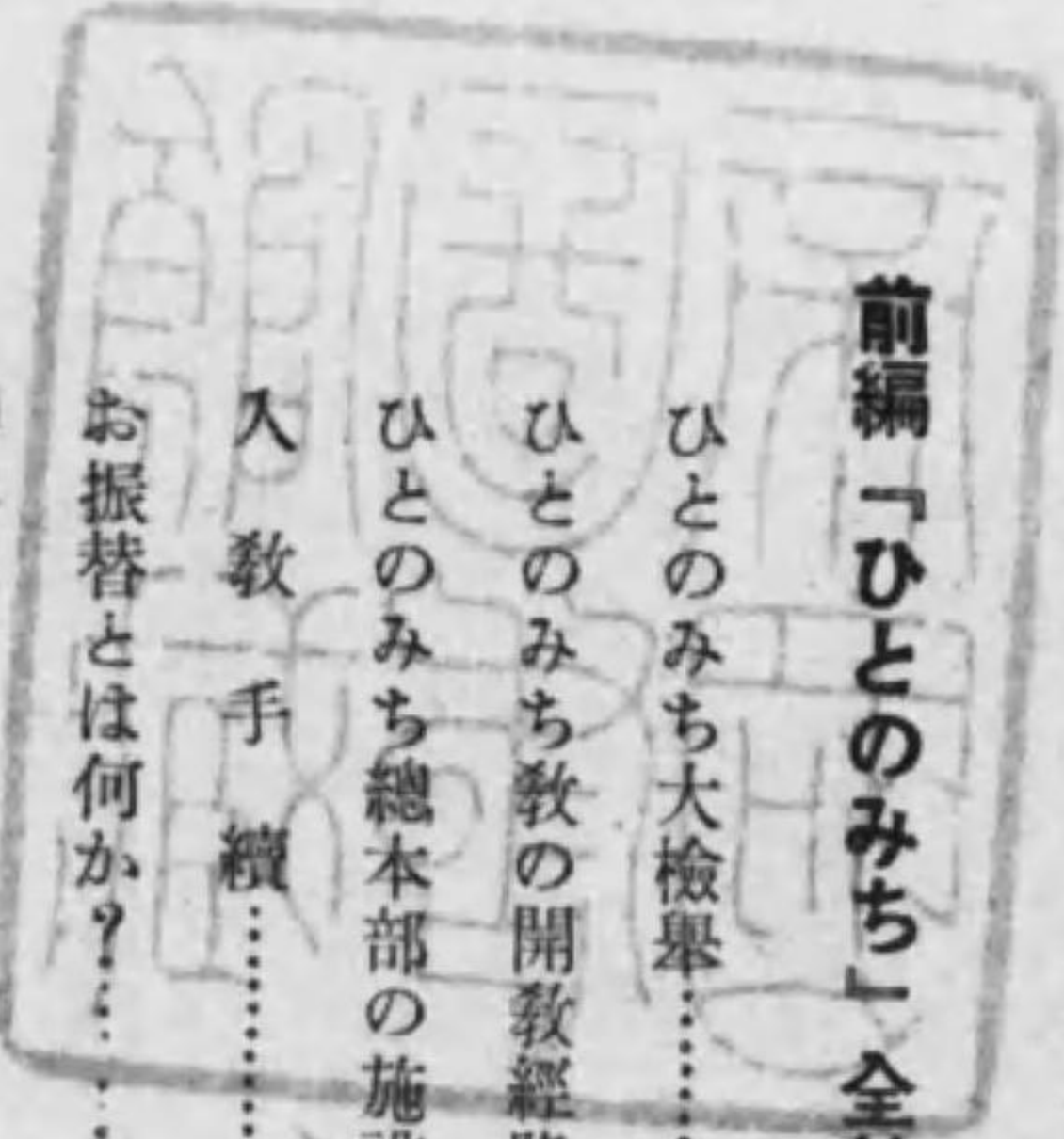


部 文 京 東 ち みの と ひ

何故人の道は發かる 目次

前編「ひとのみち」全貌

ひとのみち大檢舉	三
ひとのみち教の開教経路	四
ひとのみち總本部の施設	七
入教手續	九
お振替とは何か?	二
御木徳一の生ひ立ち	三
ひとのみちの財産と經營	五
ひとのみち支部支所一覽	七



後編「ひとのみち」邪教

ひとのみちと徳光教……………	三九
現在のひとのみち教義内容……………	三〇
御木徳一は稀代の好色漢……………	三六
教義神訓の剽窃……………	三九
大弾壓は當然……………	四〇
謎をはらむ寶生箱……………	四〇
清水芳次郎氏の出現……………	四一
ひとのみちと清水……………	四二
ひとのみちの將來……………	四三
表面糊塗策……………	四四

【前編】「ひとのみち」全貌

ひとのみち大檢舉

新興類似宗教の取締が喧ましくなつて來たので『人の道』の檢舉も遠からずやを識者に思はしめるものが多分にあつたが果せるかな愈々檢舉當局のメスが眞向から突きさゝれるにいたつた



杭迫特高課長

大本教の大檢舉の殊勳を立てた杭迫氏の大坂府特高課長就任で「ひとのみち」の摘發近し!!?との我等の想像を見事的中せしめ社會風教のため快哉を叫ばしめるものがある。何ぞ我等は「ひとのみち」の檢舉で快哉を叫ぶか……これには深い理由があるが、これ等の理由を書く前に先づ、「ひとのみち」とは如何なるものかを至極アツサリ書いて、「ひとのみち」の認識を讀者に深め然る後、ひとのみちは「邪教なり」と云ふ推斷を下し、國家社會のため、此れが閉鎖に筆を進める。

今日の檢舉の發端は、一少女の貞操蹂躪であるが、此れは單なる檢舉の理由で、必ずや當局

には色々の確證が握られて居るものと想像する。兎に角事態は今後の推移に見ねば分らぬが、仲々面白く發展するだらう。

何しろ、同教團が立川流の陰陽教である處から、發かれる總べてが、エロ中心の事とてエロ時代には仲々興味をそゝる話題に相違ない。我等は當局の取調べを見る前へに前記の通り一足先に「ひとのみち」の正體を明るみにさらけ出して、その邪教振りにメスを入れて見やう。

ひとのみち教の開教経路

ひとのみち教とは？それにはまづ同教が最も重大視してゐる「かくれおや」(幽祖)と「をしへおや」(教祖)の説明が必要である、幽祖といふのは初代教祖が教へを受けた故金田徳光師、泉州堺の人である。

教團の傳へるところによると徳光師は文久三年に生れ幼少のころより神童のほまれあり十八歳のころから深山幽谷を跋涉して三十有餘年間苦行を積み『天人合一』の心境に達した、そして教育勅語を奉體、實踐することを人倫の大道と悟り、これをもつて一教を樹立しようと志し大

正元年まづ御嶽徳光教會を起した、大正七年その體得した一切を徳一氏に譲り後事を委ねて翌八年一月死亡したといふのである。

徳一氏は明治四年一月二十七日松山市唐人町二丁目の麴商星之岡屋御木貞五郎氏の長男に生れた、父が株に失敗したので九歳のとき剃髮、同市朝日町黄檗宗安城寺の住職になり、そのころブリキ製の田植機械の發明を思ひたち職人數名を置いて大々的に計畫したけれども製品は一向賣れず財政的に破綻して寺の財産、田地約一町歩を賣り無一文になつて破れ寺を立去つた、大正四年ごろ大阪住吉區松虫通に忽然と現はれ神道徳光教を開いてゐた金田徳光師のもとに身を寄せ大正十四年ごろ人道德光教を起し御嶽教に屬し大阪阿部野附近に本部を置き九州、中國方面へ續々支部を設置猛烈な進出を企てたので各地の御嶽教支部と勢力争ひとなり勢力侵害反對運動を受けて遂に昭和二年秋岡山において御嶽教岡山教務長から強硬な支部設置反對の膝詰談判を受けた氣を腐らした徳一氏は神道扶桑教大阪教務廳長をやつてゐる清水芳治郎氏に扶桑教への轉屬の斡旋方を申込み、清水氏は東京本部の管長事務取扱壬生基義氏と折衝、直轄教會として取扱はれることになり既成宗教「扶桑教」の名を冠しその別派を稱した、昭和三年現在

の會堂を大阪市外布施町に建設、「ひとのみち教團」と稱したのは昭和六年三月であつた。

教義は人道徳光教のものをそのまま踏襲し夫婦和合及び男女の道を唱導し獨特の信者獲得法を執拗に繼續し急激に擴大した、昭和六年大阪府警察部ではその教義に淫祠邪教的色彩があるとして徳一氏を召喚取調べたが證據不十分として釋放、こゝにおいて同教は百八十度の急轉回をなし邪教と目された問題の夫婦和合に關する教義を表面より引き込め「祈らざる信仰」——從來の宗教上形式的儀禮を排して實質的な共存共榮の經濟的機構の工作につとめインテリ群の娼集をみるにいたつた、かくて既成宗教の型を破りむしろ經濟的團體の新形装をもつて世間に登場したものであつた、教理は同教團から發行された「眞行人道新聞」に二代教祖となつた徳近氏が「二代をしへおやを嗣ぐに當りて」と題し簡明にのべてゐるが、それによると

「人は神の表現であるから絶對我無く暮すのが人の道である、人の世は明津御神として現はれたまふた 天皇陛下の治しめされるところであり、人の一生は天皇の御爲に終始するのが目的である、と宣明したをしへおや御木徳一は絶對、我無き人であり、天皇の御爲に世を救ひ人を救ふ眞のをしへびとであると信念し、開設當初より今日までひたすら布教に努力して

來た」

とあり、表面上は何處までも教育勸語の實踐をふりかざしてゐる。

ひとのみち總本部の施設

ひとのみち教團假本殿は去る九年十月教團十年記念大祭にあたり壯麗を誇つて落成したもので宛然大赤銅御殿で間口百九十二尺、奥行二百八十二尺、棟の高さ八十八尺、純日本式の外觀を整へて豪勢を誇る鐵筋コンクリート建、その規模ははるかに京都の東西本願寺をしのご素晴らしさで、工事費六十五萬圓、所要延人員約十萬人、その半分は信徒の勞力奉仕によつてゐる。假本殿の正面大玄關の階段をのぼれば柱なしの例の千八疊敷大廣間がある、眞正面には板間百疊の神殿、その外側は約二十の信仰室で二間幅の大廻廊がぐるつとめぐつてゐる、階上には貴賓室、應接室など數室があり、地階には一時に千二百人を收容できる五百疊敷の大食堂をはじめ、日本間食堂、純洋式食堂その他數室が設けられてゐる、本殿一切の電力は四百キロの送電所から送電され、數個のマイクロフォン、全建物に設備されたスピーカー、電燈、電熱裝置、

電話、電氣時計など十分に電力が利用され、また百ヶ所に近い大小便所、十數ヶ所の洗面所、水飲所、廿馬力のタービンポンプの据えつけられた深さ五百尺の井戸、二千石を貯へるといふ鐵筋コンクリートの貯水槽、飲料水の空氣淨化用噴泉、五斗炊きのライス・ボイラー十個が備へられた炊事場、大浴場、一日五百人分の洗濯は樂にできるといふ洗濯設備、一日の能力四十俵の精米所と自動洗米機、豪勢な給湯設備等々いち／＼數へあげるの煩にたへないほどで、同教團がほんの堀立小屋に過ぎないといふこの殿堂は堀立小屋どころかまさに日本建築中の最高峯といはれてゐる。この假本殿敷地と道を隔てた東側には鐵筋コンクリート三階建の教師アパート三棟があり本殿に近く鐵骨二百尺の國旗掲揚臺が聳え、また和洋折衷の醫學研究室二棟、教師家族學童寄宿舍一棟がある。

さらにその西側には教師子弟のみのための鐵柄コンクリート三階建小學校一棟、十餘臺の自動車を入れるガレージ、印刷工場もある、更に西方の一廓には中央に舊本殿、教祖殿、准祖邸會議室などがあり、南接して幼稚園もある。また東京中野區櫻山町にはひとのみちの中學「中野中學校」を持つてゐる、總延坪二千三百坪、現代科學の粹を集めた諸設備を有する大殿堂で

かうした世俗的な物質的な方法で精神界の救済指導を志すあたりひとのみち教團の矛盾があるといはれてゐる。

入教の手續

『ひとのみち』へどうして入教するかその希望者は必ず信徒の紹介が要ることになつてゐる、まづ入教誓約書に署名し神前に誓ひ入會金として金二圓を納める、それは機關雜誌「ひとのみち」一年分の誌代とアルミニウム製「實生箱」(獻金箱)と信徒手牒と、瑠璃製の門標と銀製の信徒マークとの五種の實費といはれる、一家のうちで最初に入教した者を責任加入者といひ、その家族が入教する時は家族加入といつてさらに五十錢を要する、さて以下交付の品物について一應説明すると

信徒手牒——はじめに勅語を掲げ、これはひとのみちの根幹として奉戴する、次に『大祓詞』があつて祭典の際奏上する、このほか「ひとのみちの詞」「元則」「人則」おふりかへの詞「朝詣表」などがある。

寶生箱——圓筒形の箱でその表面に「ひとのみち」教團本支部は信徒の淨財獻金によつて維持經營され同時に布教發展をなしつゝあるのです。淨財を各自が惜しみをかけずに獻金する方法ですからこの意義を奉じて毎月必ず教團へ御持参下さいと書いてあるのを見てもわかるやうに一種の賽銭箱が各自の家庭へ出張してゐるわけ。

マークと門標——昭和八年の「をしへおや」誕生祭の時から全信徒は襟にマークをつけることになつた、銀地の圓に日の丸を表はしたのだが、また信徒の戸口にも瑠璃製のプレートを打ちつける。

機關誌——「ひとのみち」は大正十四年九月の創刊で毎月發行するが、「ひとのみち婦人」短歌雜誌「あしかひ」週刊「眞行人道新聞」(東京發行)などもある。

おふりかへ儀——昭和十年三月十日の陸軍記念日をトシ造幣局で御一期製作として費用五十萬圓をもつて十八萬個を鑄造した、これはすべて帝國陸海軍の規格に準じた合金か或ひは純ニツケルを使用したもので實費三圓で、熱心な信徒に頒布し、表面に「をしへのおや」の姿が鑄込んである、製作した當時かなり攻撃非難的となつたものだが、いざ緩急の場合一

個残らず政府に獻納して國防資源にするといふことで鼻がついた。

朝詣り——本教團の特色で一年三百六十五日毎日朝詣りを勵行せしめる、京都ではこの朝詣りの信者のため初發電車を十分も早くして「ひとのみち電車」とさへいはれる。

お振替とは何か？

「ひとのみち教團」が大衆の心を掴んだ重心にいはゆる「お振替」がある、お振替とは「ひとのみち」の信者のみに與へられたと稱する神様の特典で特に病苦の悩みをもつ信者に有難がられてゐる。

たとへばある支部の一人の信者が肋膜炎を患つたとする、この場合支部長にその趣きを告げると大阪の本部へ問合せ、本部から「飯を腹一ばい食へ」とか「憂ふな」とか「腹を立てな」とかといった御神宣が下付される教祖が自分の體に信者の苦痛を振替へて背負つてくれるといふのである、もつとも暢氣な事をいつてをれない場合、たとへば高壓の電氣にかゝつたとか大地震で建物の下敷になつたとかいつた場合は、やゝこしい手續は間に合はないとあつて至極重寶

にできてゐて、たゞ一口教祖の名を呼べば、ひとのみち特有の神通力でたちどころに救はれる
 「教祖さま！」と呼べなければタツタ「おい……」と叫んだゞけでもその聲は教祖の耳に通ず
 るといふのである。

御木徳一の生ひ立ち

昭和の救世主と自稱し、ともかくも全國六十萬の信徒から「教祖」とあがめられる身になりながらたうとう一少女から貞操蹂躪の巨弾を投げつけられた問題の人「ひとのみち教團」初代教祖御木徳一氏とはいつたいどんな人物か？ 明治四年一月二十七日の朝、松山市唐人町の麴屋さん星之岡屋の當主貞五郎を父とし、妻かねを母として呱呱の聲をあげた次男坊これが彼で添寝の母の乳をほしだけ呑むとブイとそつぽを向いて知らぬ顔の半兵衛をきめこみ、父が呑む、打つ、買ふと三拍子揃つた極道者であつたゞけにともかくも常人とちがつた血が流れてゐた。彼九歳の春、松山市西郊西山の中腹安城寺の小僧にやられた、黄檗派の禪寺だつたので剃髪して名を長源、住職福山大道の膝下にあつてポツリ／＼お經の稽古をはじめた。それからの

彼の教奇を極めた人生行路はナント僧侶、織物屋、農具屋、餅屋、假頭の立賣り、焼芋屋、おでん屋、郵便配達夫……と窮迫のドン底がつゞいたが十八歳の青春多感なりしころ一かどの善智識をもつて任じつゝ上京、本所五百羅漢寺に寄宿したものだ、これは彼が背廣服に袈裟といふ珍妙な姿でモダンぶつた當時のエピソード――

同寺の磐山和尚は、坊主が洋服を着るなんて怪しからんとカン／＼になり「お前なんかまだ／＼修業がたらん」とピシヤリ平手で彼の頬を叩いたのち「どうちや痛いか、心頭を滅却すれば火もまた涼しちや、貴様のやうな奴にはわかるまい」と睨みつけると「ウム、わからんです」とちつと齒を食ひしばつてゐた彼は突然火鉢の中の焼火箸を抜きとるなり、得意顔の和尚の右手の甲をジューンと焼きつけた、和尚驚いたのなんのつて跳び上つて悲鳴をあげたところ「心頭を滅却すれば……」とやつてのけて悠々せゝら笑つた。

その後二十三のとき、再び郷里へ歸り安樂寺の住職に納まりかへつて翌年早々十六歳の出戻り娘を梵妻に迎へた、その後安城寺和尚となつたが、松山に妻子を残して下關や大阪へと轉々出稼ぎに飛出したのは三十四五の壯年時代で、あらゆる露店商人暮しに失敗した揚句とぼ／＼

と大阪に辿りついた時には懐中僅か一錢銅貨二枚といふまさにルンペン同然の身の上だつた。このとき彼は心に決するところあり、萬難を排して病妻や子供を大阪に呼び寄せた、時に明治四十一年、世はまだ日露戦役の戦捷に酔ひしれてゐたころだつたが彼はもと馬小屋だつた四疊ほどのあばら屋を借り悪質の痰咳病にもがき苦しみつゝ焼芋屋やら郵便配達夫をやり長女を看護婦に出し、また電話交換手として働かせ、長男はこの窮迫のうちに冷たく病死し、次いで病妻も死んでいつた。

ところでこの前後、交換手をやめて女中奉公に行つてゐた長女が「不思議な靈術で病氣を癒す人があるさうだがお父さんも一度診てもらつたら」と金田徳光の靈能話「一くさりを傳へん悲境のドン底に喘いでゐた彼は溺れる者薬をつかむの心地で金田を訪れたところ金田は意外にも「病氣は私の身體に引受けて癒してやる」といつて彼の目前で何事かサラ／＼誦し、右手を三度胸にひき寄せると見る間に金田はひどく咳き入り、たゞそれだけで彼が一生癒るまいと思つてゐた業病がケロリと癒つた彼は最初「この狐使ひの外道め」と思つてゐたが、この時だけはシーンと頭が下つたさうである。

前途に一抹の光明を持ち得なかつた彼がこれを動機にたゞわけもなくこの修験の秘法にすがりついて行つたのは當然だらう、翌日郵便配達夫を辭するとさつそく金田師のもとへ日参し出した、御木が現在なほ金田を幽祖（おんそ）と稱して崇敬するゆゑんものは實にこの點に存するのである、だからかれが昨年十一月十五日墓参のため歸郷した時信者七十名を率ゐる自動車を運らねて松山市外道後湯之町道後ホテルに入り十八日まで四日間滞在し安城寺に五千圓、松山市方面委員後援會に四千圓、松山市青年團聯合會に二千圓を寄附し、なほ安城寺に總工費一萬圓を投じて先祖の石碑を建立し四畝歩の參道を開いて市に寄附するなど豪勢ぶりを見せたとき當時を知る人々は目を丸くしてびつくりしたものだつた。

ひとのみちの財産と經營

ひとのみち教團の財産はどんなものか、豪華な假本殿を中心としたこの一廓のガレージには高級自動車三臺が教祖の豪奢な生活を物語つてゐるが「ひとのみち」を知る某氏の話では——
 資産としては去る四月愛知縣知多郡成岩町養鶏飼料製造業杉治商會主杉浦治助氏が同町宇島

根山の丘陵地三十町歩を買収寄附したのが唯一つ、一方假本殿の建設などにより約百五十萬圓の借財を負ふてゐるからソウトウなものではある、ところがこの借財は公債のやうな利札付證書を同教團が発行して信者から醸出させたものでその結局は信者が證書奉納といふやうなことに落着、微妙な財政のヤリクリが行はれてゐるさうだ。

同教團の財政的足場はさきの「三十町歩」で東京にあつた同教布教師養成機關たる「ひとのみち學園」をこゝに移し教師候補者を集めて労働奉仕をしつゝ修行させる計畫を立て更にこゝから滿洲方面への農業移民をもさせる計畫で最近自ら次男を渡滿させ各種の調査を行ふなど尨大なプランを樹て、同時に信者獲得に努力してゐる。

日々財産は全國の信者および支部よりの申込金、分靈料、刊行物の代價などでまかなつて居る。

ひとのみち支部支所一覽

本部 大阪府中河内郡布施町

●北海道

札幌 札幌市北一條東二丁目五 電話四三二一六
 小樽 小樽市住初町二丁目一九 電話三八八六
 函館 函館市千歳町一二 電話二四七二

●岩手

盛岡 盛岡市糠子小路三九五 電話九一
 水澤 水澤町表小路一 電話三六

●山形

山形 山形市三島通 電話四九七

●宮城

仙台 仙台市定禪寺通橋町一四 電話四一二

●群馬

太田 新内郡太田町九五四(支所)
 館林 邑楽郡館林町館林二五三一(支所)

● 栃 木

足利 足利市本城三丁目三〇六五(支所)

● 千 葉

銚子 銚子市飯沼清水町 電話六八二

市川 市川市市川真間一〇〇 電話市川五七九(支所)

● 東 京

東京 東京市澁谷區大向通一七

電話青山六七三七
振替東京九七三三五

牛込 東京市牛込區橫寺町五七 電話牛込四九八〇

兩國 東京市本所區東兩國町一ノ八 電話本所七三七一

池袋 東京市豐島區池袋二丁目 電話大塚七六七

萬世橋 東京市神田區旅籠町二丁目 電話下谷八二三

五反田 東京市品川區五反田二丁目三三八 電話高輪六〇三六

上野 東京市下谷區上野櫻木町二 電話下谷八〇七八

銀座 東京市京橋區銀座三丁目二 電話京橋七五一九(支所)

荒川 東京市荒川區尾久町荒川遊園地内 電話下谷二六七五(支所)

青梅 西多摩郡青梅町青梅二〇九 電話青梅一二六(支所)

● 神 奈 川

川崎 川崎市榎町六〇 電話二九八六

橫濱 橫濱市中區福富町西通 電話長者町六三七七

橫須賀 橫須賀市陸田町三四一 電話一七五四

鶴見 橫濱市鶴見區鶴見町二五六 電話鶴見三三六四(支所)

● 山 梨

甲府 甲府市橋町一八 電話三〇九八

● 靜 岡

沼津 沼津市大手町二五 電話七三三九

清水 清水市櫻橋通 電話四九八

靜岡 靜岡市水落町三丁目 電話二九二六

靜岡西部 靜岡市通車町(支所)

濱松 濱松市元城町一二七ノ五 電話二八九五

● 愛 知

豐橋 豐橋市舟町一一〇 電話二六八五

新城 新城町橋向(支所)

名古屋 名古屋市長島長嶺町四丁目七 電話東四九七一

半田 半田町 電話三七八

●岐阜

岐阜市青柳町九 電話二九六九

●富山

富山市櫻木町十一 電話三三二九

高岡市中川一一一五 電話四四三(支所)

●石川

金澤市西町二番丁 電話二六一二

輪島市字鳳至町下町一〇五

●福井

福井市佐佳枝下町九〇ノ一 電話二四五五

小濱町一番町 電話一三一

敦賀町蓬萊區 電話四二九

坂井郡三國町元新一四(支所)

武生町(支所)

●京都

京都市右京區四條通西大路西入三丁 電話京都本局五五八五

●滋賀

大津市白玉町第十五(支所)

八幡町 蒲生郡八幡町大字爲心町中第十二(支所)

●大阪

堺市中之町一三 電話二八八六

岸和田市岸城町 電話二九三三

●和歌山

和歌山市東長町六丁目 電話四七〇七

新町 和歌山市毛革屋町一二(支所)

笠田 和歌山縣伊都郡笠田町東一〇(支所)

●兵庫

西宮市用器町九八 電話三三七二

神戸市神戶區山本通四丁目一〇八ノ二 電話合一七七七

神戸市合區宮本通五丁目 電話合一三二七(支所)

兵庫市兵庫區三川口町三丁目 電話淡川一〇四二(支所)

灘市市灘區篠原南町六丁目 電話御影三六九〇(支所)

須磨市須磨區離宮前町四三 電話須磨八四三(支所)

明石市櫛屋町一丁目一六七 電話一〇六五

姫路市大黒町二四 電話二一五七

●岡山

岡山市下西川一四五 電話五七四六

西大寺 電話四五六

津山市南新座三丁目三六 電話五五六

●廣島

尾道市久保町 電話三三二

府中 菅郡府中町朝日町六九九(支所)

福山市西町 電話六九七

廣島市元柳町一七 電話四九八三

廣島市段原町(支所)

廣島市西白鳥町一二五(支所)

廣島市皆實町三丁目九四五ノ一(支所)

吳市堺川通五丁目 電話一九八七

三 雙三郡十日市町 電話一九八

●山口

山口市下金古會町五八 電話七五四

德山市新町三七五九 電話五一四

宇部市東區榮町 電話一一三二

●德島

德島市會所町二五一ノ九六 電話二二七八

●香川

高松市中新町五七 電話二七七九

●愛媛

今治市住江町二丁目五六六 電話七九〇

松山市三番町四四 電話一七三三

●高知

高知市大川筋九三 電話八七〇

●福岡

門司市浪花町五丁目 電話一三九四

小倉市紺屋町 電話一四八一

戸畑市常盤町一丁目 電話七七六

八幡市德廣町四丁目 電話一七八三

若松市老松町七丁目 電話一二六四

後藤寺 電話三三五
 飯塚 飯塚市稻荷町 電話七七〇
 福岡 福岡市大名町四丁目二〇三 電話六二六八
 博多 福岡市真砂町四二 電話三二七二(支所)
 久留米 久留米市西町廣文 電話三五八五
 吉井 吉井町 電話三七(支所)
 福岡 福岡町 電話六五(支所)
 柳河 柳河町横山町二 電話三一
 大川 三州郡大川町榎津七四八 電話若津局三一八
 城島 城島町榎津 電話七八(支所)
 大牟田 大牟田市本町四丁目七〇 電話二〇七九(支所)

●佐賀
 島橋 島橋町森園町 電話長二二三
 佐賀 佐賀市伊勢屋町三五 電話一三八八
 伊萬里 西松浦郡伊萬里町甲六一五(支所)
 唐津 唐津市大字唐津三三六ノ五(支所)

●長崎
 長崎 長崎市廻屋町一五 電話四〇二二
 長崎第一 長崎市錢座町二丁目二一 電話三六九二(支所)

佐世保 佐世保市下京町九六 電話一五一〇

●熊本
 熊本 熊本市山崎町四七 電話四三八六

●鹿兒島
 出水 出水町 電話一〇五
 鹿兒島 鹿兒島市山之口町七三 電話七九四

●宮崎
 都城 都城市八幡町(支所)
 宮崎 宮崎市黒迫町二丁目二〇 電話四六四

●大分
 大分 大分市荷揚町一五七 電話五四六
 別府 別府市濱臨電車通 電話一七九
 日田 日田郡日田町竹田字川原町三六五(支所)

●朝鮮
 釜山 釜山府寶水町三丁目六一 電話長二一〇三
 大田 大田府本町二丁目二〇 電話二一三
 振替口座釜山三四四

京城 京城府京城驛前高臺 電話本局一三〇九
振替口座京城四五五〇
元山 元山府本町二丁目一 電話長五一
威興 威興府昭和町一丁目二七

●關東州

大連 大連市松山町九 電話長三一二五六一

●滿洲國

奉天 奉天市八幡町四 電話六五三八
新京 新京市曙町三丁目一四 電話三ノ四一〇九
哈爾濱 哈爾濱市斜街三二 電話七二六八

●中華

青島 山東省青島聊城路 電話三〇一七
天津 天津日本租界宮島街三一 電話二〇〇八七

【後編】「ひとのみち」邪教

ひとのみちと徳光教

ひとのみち教の神訓は徳光教の、神訓を真似たので、ひとのみち教なるものは、決して公認宗教でない。自ら教祖とおさまる、御木徳一の腹藝により、公認宗教たる、扶桑教の廂の下に至極合法的な、からくりのもとに類似宗教としての、取締弾壓を免ぬがれてゐるのである、然してかくもからくりのもとに、彼れの包懐せる野望を達成することに、寧日なき有様なのだ。扶桑教とは、神道十三派の一にして造化三神を「元の父母と稱へ、その神徳を尊信し惟神の大道を修めるものを、教旨とし、主神を神田市世田ヶ谷區松澤に鎮祭し、これを扶桑教太司といひ各地に教會及び講社を置き、現在信徒約五十萬と稱せらるる公認教である。

従つて此の扶桑教の陰に隠れて、御木徳一を教祖としての教義、布教されてゐる譯なのだ。這般の、大木教天理教の御手入れの如きは、何處吹く風かとばかり、表面至極平生を、見せてはゐるものゝ、内心かなり、びく／＼したるものゝあることは窺へる様だ。

尙筆者の驚かさざる得ない事は、ひとのみち教團の神訓の内容だ。現在ひとのみち教の、教義

に用ひてゐる、神訓二十一ヶ條の内、十八ヶ條迄、彼れ御木徳一が、曾て落魄の砌り寄宿して居た徳光教の神訓十八ヶ條を其のまゝ、拜借に及んでゐる事なのだ。つまり表看板を塗り替へて自ら教祖になりすましてゐる譯なのだ。

現在のひこのみち教團の教義内容

ひとのみち教は、

(A) どんな難病でも信仰一つで癒してくれる。

(B) 夫婦和合を露骨に奨励する。

(C) 神示、神宣、振替

等つまり吾々の日常生活に直接關係の深いしかも相當に魅惑的なものが、待ち構へてゐるからであらう、更にもう一つ、教義その物に非常時色が、濃厚に盛られてゐる點も、數へられてよいだらう。まづ最初にこのひとのみちの教の、教典であるが、これは畏多くも、第一が教育勅語。第二が教宣。第三が神律。第四が神訓この四つから成つてゐる。

教 宣

宇宙の大元靈は、神皇一體、祖孫一心、天人合一の大義を、開示し以つて、靈性靈能を、顯彰啓發し、以つて天稟の大器を成就せしむ。乃ち、先天の神律を體し、後天の人法に遵ひ、幽顯神祕の門に入り、神祐を享け眞福を完うせよ。

神 律

神は、萬象の根源なり。
君は國土の主權なり。
人は神の表現なり。
夫は、生ます力の持ち主なり。
婦は、産む力の持ち主なり。
世は、神業の實現なり。

神訓

三二

- 一、神は、一體である。萬神なきことを知れ。
- 二、神は國のたからである。
- 三、陛下は、國民の親である。
- 四、親の心は、神のこゝろである。
- 五、世の中に、生きるものゝ、元は皆水である。そのもとは日である。
- 六、天地は一切のものを育て、大きくする。
- 七、世の中は一切のものを陰陽で持つ。
- 八、世の中にあらわれたる、一切のものは皆人をいかす爲に、うまれるものと知れ。
- 九、世は鐵、人は鐵、子は鐵である。
- 十、宇宙に顯れたる一切のものは、道と知れ。
- 十一、人は、萬物の靈長である。人より尊きものはないことを知れ。
- 十二、天性を働かし中間を守れよ。
- 十三、何事も其の元を忘れず行へよ。

- 十四、何事も約束を違へるな。
 - 十五、心を虚くして人を尊むべし。
 - 十六、何事も行はぬ故に、苦痛となり行へば苦痛とならぬ。
 - 十七、怒り急ぐ、憂へ悲しむは、物事を崩す。
 - 十八、苦痛は善惡のさかひと知れ。
 - 十九、幸福は已れを捨つるに在り。
 - 二十、何事も悟るとともに働かせよ。
 - 廿一、國を尊び家を大切にし、身を堅固にせよ。
- 以上によつて、大體分る様に、この宗教は、佛教や基督教などに比べて、徹底的に、現世的であり、さらに肉體中心である、即ち教宣に於て、説かれる大元靈といふは、云ふまでもなく、神であるが、この神そのものゝ表現されたものが、吾々人間であると云ふ、此處が、創造神を立てるキリスト教とも異なり、阿彌陀佛や、大日如來を立てる、佛教とも異なる點である。更にこの宗教の、特徴は前にも云ふ如く、徹底的に、現世主義な黨である。こゝでは天國極樂地獄と云ふやうな、來世的なもの一つもない。要するに、どこまでも現世中心である、従つて

三三

それは、宗教と云ふよりも寧ろ倫理に近いと云ふべきであるが、これが、現代人の心を捉へてゐるとも考へられる。殊に、その実践法として「夫婦の道」を説き、「夫は産ます力の持主なり、婦は産む力の持主なり」と教へ夫婦生活の徹底的整調を、奨励し強調する點は——たとひそれが天地間の法則を、陰陽に還元せんとする、原始理論に、近いものであるにせよ、一見平凡に見へて實は非常に魅惑的だ。況んや、單に夫婦相和の、程度に止らず、汎く「男女××」を強調し奨励した數年前をやである、また「御神宣」その他諸ゆる場合この夫婦和合の徹底的実践こそが、ひとのみち教の眼目であると宣べられるのは、特に注意すべきであらう。更らに病氣治癒の問題、神示、神宣、振替等を今少し具體的に説明すればどう云ふことになるのであらうか左に簡単に述べよう。

神 示

これは吾々人間に襲ひ來る一切の不幸即ち、病氣災難貧困その他、精神肉體兩方面に襲ひ來る一切の苦痛を指すものであつて、即ち神は右の如き苦痛を與へて、人の心の曲れるを警告する

のだと云ふのである、同教の信者達は、この神示の示しを「みしらせ」と呼んでゐるがこのみしらせは、凡ての人間の上に現れることに、なつてゐると云ふ、神宣だが、吾々は何が故に、あるひは、病氣のみしらせを受け、或は一家災厄の、みしらせを餘儀なくしなければならぬか、アツサリ分らない。かくてこの疑問を解く唯一の鍵として現はれたのが神宣である。即ち何にかの神示を受けた者は、此の神宣によつて、この原因を、明かにすることが出来るが、それと同時にではどうすればよいかと云ふ問題に對して、明快に、進路を指示して呉れる。而してこの指示に従ふ時災難も、病氣も、その他其の人につき疑ふてゐる一切の不幸が、取除かれる反對に、若しこの指示に従ふ時災難も、病氣も、その他其の人につき纏ふてゐる一切の不幸が、取除かれる反對に、若しこの神宣に背いたならば、その不幸は一層擴大して行く、同教の信徒達に、神宣が絶對的に權威を持つ所以である。然してそれは教祖嗣祖準教祖等に、よつて與へらる。

御 振 替

ところが數多くの信者の中には右の如く神宣を乞ふて、自分に表れた、神示を教へてもらひ、其の上でおもろに、それを解決し、善處するには、餘りに逼迫状態に直面する者もあるだらうつまり御神宣と云ふ様な事を、持つ餘裕がない、今直ぐなんとかして、貰はねば死んでしまふとか、破産してしまひそうであるとか、等々の場合がある。つまり、御振替はその様 人々爲に、設けられたものである。

處が如何なる都合に、よるのか脊髄病狂者、盲目、癲癇、聾啞等のごとき、廢疾者のみは、例外とされ、よし御神宣を願ひ出ても受け着けないことになつてゐる。

猶参考迄に、御神宣の内容に就いて、一例を御披露いたさう。「大神の御前に謹しんで申します。人の云ふことすることを氣にして、不足思ひません。如何なることも、心配せず、なる様になると思ふて、呑氣に、陽氣になります。如何なる人も、人をすききらひする様な心一切出しません夫婦陰陽のみちをいやがる様思はず、毎晩よろこんで○○○○○○○○○○。

これは半紙四ツ切大の紙切れに、書かれたものであるが、人の噂によれば一人々々の神示に、應じて與へられる筈のこの御神宣であるのに、實は既に前以て作製されており、其の種類は大

同小異のもの、合計二十餘種あると。

もしこれがほんとうだとすれば「神宣はあなたの神示に、應じて特に下されたものだから、絶對に他人に公開してはならぬ」と嚴重に注意されるのも當然である

かくて御神宣を、隨喜して頂戴出来る様になると、もう一人前の信者で、この人々は本部の大帳面に、記入せられる、そして機關紙「みちのもと」一ケ年代一圓の他に信徒マーク門標寶生箱代五十錢此だけの事をすれば歴つきとした信徒となる。これが更に、進級すると、教徒の列に加はるのであるがそれには、元靈「神靈及教祖の分靈でこれを祭つれば一家病氣にならず又圓滿に暮らし、それが三寸四方位の木製臺上に菊花様な彫りもの、ある。圓形の木を中心に置かれてある」を三十圓出して願ひうけて自家に祭らねばならない。

しかもこれだけでは同教徒でも准の字を冠せられる従つて、眞正の教徒たるは、右の他に父祖傳來の祭神佛壇全部を廢して、その變りに祖靈並に皇靈を願ひ受けねばならぬ、それやこれやで眞正の教徒になるまでにはざつと二百圓餘り資金を要するといふ。

御木徳一は稀代の好色漢

侍女八人中の一人が教祖御木徳一を相手に貞操蹂躪の告訴を提起したがため今日の「ひとのみち」大手入れとなつた事は今更ら書く必要はないが六十七になる教祖ともあらうものが、十六娘の貞操を奪つたとは此の一事を以つて宗教家としての資格を消失して居ると言つても至言であるが我等は此の一事よりも彼れが幽祖として、一日たりとも忘れ得ざる金田徳光師の病臥中一教師の娘の貞操を奪ひ、問題を起し、爲めに徳光教を破門されて居る點から見ても、彼は稀代の好色漢であり女性の敵である。彼が破門の際、一札として、宗教家として前代未聞の『詫状』を徳光教會に對し差し入れて居るのであるから此の事に對しては御木は何等の反對も出來まい。これは徳光教の某氏的手中に深く秘められて居ると云ふ事である。

一宗の教祖とも云ふべきものが少女の貞操を玩具視するところに先づ教祖としての價値を失つて居るが、之れは一教祖の個人問題として解消せしめればそれでよいが、我等は同教の教義の「世の中の一切のものは陰陽で持つ」と云ふのががあるが、此の神訓を同教では夫婦

和合となし、はては若い男女の和合を教へて居るところに非難がある。

男女の和合を簡單に説くので、つひにエロ的に陥り、ひとのみちに參れば直ぐ女が出來、男が出來るやうに教へられる事だ。而かも御教宣と云ひ、御振替へと稱するもの、中に頗る世を毒するものがある。筆者の耳にした教宣に

「妻が承らく病氣でねて居りますがどうすればよいてせうか」

「それは病妻を捨て、新しく妻を迎へよ」

こんなものがあるのだから、根本的に日本古來の美俗をくつがへしてしまふではないか。

教義、神訓の剽窃

次に我等が同教を問題視するのは同教の教義の中心たる教宣と教訓が前掲の通り神道徳光教會そのまゝをかゝげしかもこれに二三をつけ加へたと云ふ點である。これは金田徳光師が死に際し、一切を自分(御木)に譲られたと稱して涼しい顔をして居たが、その事自體が眞赤な偽りでエロ問題で破門されて居るのだから識者は此の點を考へねばならぬ。他教の教義を盗んだ御木

をどうして、教祖として崇める必要があるか、世は如何に剽窃時代とは云へ、一國の風教を支配する、宗教にあつては斷じて剽窃は許容すべきでない。

大彈壓は當然

今や教祖御木を始め各關係者が當局の別扶に遭ひつゝあるが、これは正に當然と云はねばならぬ。

稀代のエロ漢を教祖とし、而かもエロを説き風俗を紊し、あまつさへ、他教の教義を剽窃した「ひとのみち」更らに祭神問題に關しても日本神典と背反する（これは専門的問題でこゝには記載しない）ところの一神教を樹てるなど、我が國體として斷じて一致しないものであるから當局は宜しく此れ等の諸點に對して糾明されん事を望んで止まぬ。

謎をはらむ寶生箱

前編記載の寶生箱が問題を生むものと見られて居る。即ち信徒に強制的に寄附行爲をなさしめ

るもので随分無理な獻金を強要して居ると目されるのである。次に同教では別項記載の通り社債の如きものを發行し、財産のある信者に持たし、後から勝手に寄附したものと決めたり、又は同教一流の教宣で捲き上げて居る等、此の點にも相當鋭い檢察當局のメスが突込まれて居るのではないか。

清水芳次郎氏の出現

人の道の檢舉と同時に住吉區玉出扶桑教大阪教務廳長清水芳次郎氏の名が新聞に出て居り、而かも島之内署に留置された。

清水氏と「ひとのみち」は一體何う云ふ關係にあるか、清水とは何んな人物か？

清水と云ふ男は、大阪府神道聯合會と云ふ神道聯盟の理事の要職にあり前記の通り扶桑教の地方教務廳長で神道界では相當名の賣れた傑物である。清水は宗教人と云ふよりは新聞人型乃至ブローカー型と云ふべきタイプの人で、又毎日の仕事も此の方面が多いと云はれて居る『惟神』と云ふ三十頁足らずの三文雑誌を發行して、神社や教會に網を張つて歩いて居る。昨年の暴力

圍狩の時等も、清水の事をほとんど知つた人は『よく逃れた』と評して居るので清水氏の過去、現在が窺知されるだらう。

ひとのみちと清水

ひとのみちと清水との因縁は何に依つて出来たか。清水は前記の通り扶桑教の大阪教務長である關係上、ひとのみちが御嶽教を離脱して扶桑教に轉屬するに際し清水が橋渡の勞をとつたに始まり、爾來清水はひとのみちの顧問役となつてあらゆる方面に活躍して居る。ひとのみちから清水の手に落ちる金は相當大きいと云はれて居る。

兎に角清水と云ふ男は傑物だ。だが今回の事件では再び立ち得ぬやうな大きな打撃を受けるのではないか。

邪教であるひとのみちを扶桑教の直轄教會となす斡旋をした責任から見ても失脚せずには居られまいし、公認教としての扶桑教の面目から云つても清水を斷乎處斷せねば暖簾に傷がつく事になる。

ひとのみちの將來

彈壓後のひとのみちは何うなる。本部では參拜の信徒に、宗難として自重を説いて居るが、既に信仰の中心たる御木が貞操問題で收容されたと云ふのでその半數が覺醒し、遠ざかりつゝある事として自然勢力が落ち經濟的の破綻が見舞ふに至り本部内部に分解作用を來すにいたるだらう。しかも、御木が留置場から「手記」をしたゝめて過去の一切を懺悔し、世間を欺いて誠に相濟まぬと云つて居るので今更ら信徒の離反に對してはどうする術もないだらう。

更らに、扶桑教としても、かゝる邪教を所屬せしめては、自教の存在が危くなるので、自然時を見て袖にする事になり、従つて他教としても、ひとのみちは到底所屬せしめぬだらうから、此の點から見ても消滅となり、又一方文部省當局でも内務省側の取調を待つて閉鎖命令を出すに到るかも知れず、ドツチから見ても最早や、その生命は長くはあるまいと見るのが公平な見方である。

表面糊塗策

ひとのみちが正規の教會設立をなすにあたり、扶桑教、並に大阪府廳其の他に提出されて居る願書並に契約書には、御木徳一氏の名が用ひられず、何故か、其の子徳近の名が用ひられて居る、これは既に今日あるを豫想して設立當初より、徳近を名義人として居るので、彼等の爲せるカラクリが如何に周到なかを知るに足るが、これは全く巧妙な仕方とは云へ社會は許容し得ない事である。扶桑教に於いても、この實際の手續及び契約が問題のエロ教祖でないと云つて逃がれる事は斷じて出来ない事であらう。

昭和十一年九月二十九日印刷
昭和十一年十月二日發行

金 十 錢

編發人兼 溝 畑

輝

章

印刷人 皿 海

大阪府此花區中江町三〇番地

敏 章

大阪府西淀川區海老江中三丁目四七

發行所 日本宗教學會

339
1178

終